

第 1 回尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会の要旨

1. 開催日時 : 平成 25 年 9 月 13 日 (金) 15:10~16:10
2. 場 所 : 尾原ダム管理支所 (島根県雲南市木次町 211-5)
3. 出席委員 : 速水雄一委員長、作野広和委員、勝部博委員、石原肇委員、田部英年委員、井上勝博委員、三上康則委員、滝本孝志委員、舘健一郎委員

4. 議事次第

- 1) 開会
- 2) 挨拶 国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所長
- 3) 出席者紹介
- 4) 委員会の設立
 - ①設立趣意 (案)
 - ②規約 (案)
 - ③委員長の選出、挨拶
- 5) 議事
 - ①尾原ダム水源地域ビジョンの推進体制 (案)
 - ②尾原ダム水源地域ビジョンの推進スケジュール (案)
 - ③尾原ダム水源地域ビジョン推進のための広報計画 (案)
- 6) その他
 - ①各委員の意見等
- 7) 閉会

5. 配布資料

- ・資料 1 : 尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会 設立趣意 (案)、規約 (案)
- ・資料 2 : 尾原ダム水源地域ビジョンの推進体制 (案)
- ・資料 3 : 尾原ダム水源地域ビジョンの推進スケジュール (案)
- ・資料 4 : 尾原ダム水源地域ビジョンの広報計画 (案)
- ・資料 5 : 尾原ダム水源地域ビジョン

6. 議事要旨

1) 委員会の設立

①尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会 設立趣意について

- ・尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会設立趣意 (案) については、一部修正の上、承認された。

②尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会 規約について

- ・尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会規約 (案) は、承認された。

③委員長の選出、挨拶

- ・規約第 4 条に従って委員長の選出を行い、委員長には速水委員が選出された。

2) 議事

①尾原ダム水源地域ビジョンの推進体制について

- ・水源地域ビジョンの推進体制については、資料-2 で承認された。

②尾原ダム水源地域ビジョンの推進スケジュール (案) について

- ・水源地域ビジョンの推進スケジュールについては、資料-3 で承認された。

③尾原ダム水源地域ビジョン推進のための広報計画について

- ・水源地域ビジョン推進のための広報計画については、資料－４で承認された。
- ・なお、「尾原ダムへの誘客が想定される圏域（２時間圏域：大田市、三次市、庄原市など）」には、広島市、福山市等山陽側も含むものとし、適宜追加して情報発信する。

３）その他

①水源地域ビジョン推進に向けた各委員の意見

- ・「尾原ダム水源地域ビジョン」が策定され、誠に素晴らしく、また大変壮観なものであると思っている。
- ・島根大学では３年間、国土交通省からの委託研究により「尾原ダム周辺地域活性化に向けた地域分析調査」を実施している。今後は物的資源も大事だが、ソーシャルキャピタルといわれるような人的資源を大切にして、このビジョンが確実に実行されることを願っている。
- ・地元代表者として、長い時間を掛けて「尾原ダム水源地域ビジョン」を策定いただいたことを感謝申し上げる。
- ・尾原ダムの貯水位が低いため、ボート競技大会が一部中止及び規模縮小となったが、春先の尾原ダムからの放流が少し多過ぎたのではないかと。せっかくボート競技施設があるのだから、貯水位を確保するよう関係機関で検討する。
- ・また、引き続き冷水放流とならないよう留意願いたい。
- ・「尾原ダム水源地域ビジョン」は、長期間に渡る審議を経て、膨大な資料のビジョンにまとめていただき、非常に素晴らしく感銘を受けている。今後実行・推進する立場であるが、住民代表として本委員会とのパイプ役として進めていきたい。
- ・作野先生のご協力で地域づくり団体「とんぼの会」を設立した。なお、本会は、この指とまれで有志が地域の発展のために会費を出資し、組織した会である。拠点施設「みざわの館」についても井上町長にて整備していただいた。今後も「とんぼの会」の活動を通し、地域のために頑張っていきたい。
- ・今後のビジョンの推進にあたっては、上・中・下流一体となった推進が望まれており、１年目から早々に取り組む先行プロジェクトから出来る限り下流域の方々の参加をいただきながら進めていくことが大事であると考えている。
- ・各プロジェクトの広報については、多くの人に認知されるように、皆で協力し、あらゆる手段を用いて広報活動を実施する必要がある。
- ・宍道湖までが斐伊川だと思う人が大半だが、実際の斐伊川河口は境水道であり、このように、斐伊川のことはあまり知られていないので、そういった意味でも、上・中・下流交流が進むことが大事だと思う。
- ・例えば、「斐伊川おろちウォーク」は、船通山を登り斐伊川源流の鳥上滝を見て、斐乃上山荘から湯村温泉を下り宍道湖の斐伊川河口まで３日間かけ歩くという取り組みを１０年に以上継続している。
- ・斐伊川治水計画については、今後は下流域の事業推進が必要である。そういった中で上・中・下流の交流促進がビジョンの大きなポイントであり、また、下流域住民の参加が重要である。
- ・県も下流域の治水事業を推進する立場として、できるだけ上流域・水源地域の情報等の発信を行っていききたい。
- ・ボート大会の実施については、一部大会が中止、または規模縮小が生じるなどご心配をお掛けしている。
- ・平成２６年度には全国高校総体の主会場とし予定しており、ボート競技施設の管理者である島根県としては、大会成功に向け対応していくよう考えている。
- ・本年３月に開通した中国横断道尾道松江線の影響で、国道５４号は交通量がかなり減少した。このため、

国では、国道 54 号、県では国道 314 号、奥出雲サイクリングロードのサイクリングロードとしての活用として、トロッコ列車を活用して自転車を運ぶなど社会実験を予定している。今後はこれらと共にサイクリング施設やさくらおろち湖の活用等を推進していきたい。

- ・ダム管理上、「洪水期」には水位を低く管理するが、その時期にボート競技が重なってしまう。島根県としては出雲河川事務所と連携し、ダム管理規則と規制緩和策との整合を図りつつ、ダムの多面的かつ適正な利活用に向けて、検討していきたい。
- ・尾原ダム水源地域の歴史、文化、人の営みなど総合した「風景」は一級品だと思っており、そういった「風景」を大事にしていきたいという思いがある。
- ・また、特にこの地域の誇れるものとして、多くの団体等の方々が熱い思いでいろいろな活動をされ、地域を盛り上げようとしていること、そういった非常に豊かな宝がある所だと思う。
- ・既に活動されている沢山の方の力を使って、うまくネットワーク化して相乗効果を生むということが非常に重要であると思っている。推進委員会では、そういった皆さんの力をいかに上手く同じ方向に持っていくかというところに力を注ぐ必要がある。
- ・上下流の交流も非常に重要である。出雲河川事務所も下流河川の管理及び事業を行っており常にそういった意識を持ち実施していきたい。

以上、各委員の意見を踏まえ、主に以下について留意して進めて行くこととする。

①上・中・下流交流を推進する。

②広報については、行政機関が連携し、効果的に推進する。

③ボート施設の問題については、引き続き行政間打ち合わせで検討を進めて行く。

4) 今後の予定等

- ・各委員の意見を踏まえ、早期に作業部会を立ち上げて推進していく。
- ・規約に基づき、本日の審議要旨をとりまとめ、委員長の下承を得た上で、議事要旨と会議資料をホームページに公開する。
- ・次回の第 2 回推進委員会は平成 25 年 11 月の開催を予定している。

以 上